

第十回『天誅く闇の仕置き人く』とキス我慢選手権

考え



そんなに
読んじゃ、イヤ!

弦楽器イルカ⇒友人

Eテレで『福島をずっと見ているTV』ってやってるのは知ってたけど、気づいたら観るって感じで、積極的に録画はしてなかった。んで最近、原発へ行く前編と作業員7人に話を聞く後編があったんだけど、放送時間を調べてなくて後編を録り逃したから結局、YouTubeで観た。

そんなとき気づいたのは、この番組って月に一回不定期で、深夜0時からやってるってこと。たまに再放送もするんだけどそれも予定は未定みたいな感じで、そもそも深夜に不定期の番組って視聴者が相当意識して観にいかないと、福島をずっと見せる気ホントにあんのかって編成になってる。

しかも今回は作業員7人が実名・顔出しで真剣にしゃべり場する、めったにない特集だった。って内容はまあ予想通り、例えば「誰かがやらなきゃいけないからキツくても働いてるのに、正々堂々とできない悲しみ」とか、「ワケもわからず涙が出るときがある」とか、「家族に反対されて泣かれたりする」とか、「でもみんな頑張ってるから自分だけ逃げ出すワケにはいかない」とか、「危険手当も減って中には手当てなしの会社も結構ある」とか、「このまま働いていいのかって疑問や不信はみんなあるしテンションが下がる」とか、「嫌気がさして辞めちゃう人が多い」とかっていう、人間だったら（十代じゃなくても）当然って話だった。

誰もがやりたくない仕事をこの瞬間も引き受けてる人がいる。彼らの精神的・肉体的な犠牲の上に国民全体が生き伸びてる。当然みんな知ってる。でも、普通にテレビ観てるだけじゃそれを目にすることがない。特攻する戦争映画とか、五輪の飛行隊はぼおっとテレビつけててもCMやニュースで嫌でも目に入るのにね。この差異はお金の動きがあるかないかで明快に決まってる。

みんな知ってて、ずっと見ないようにしてる。持つ者と持たざる者、金持ちと貧乏人、権力者と被支配層に分かたれる社会はこうやって、多数派の国民が居心地良く暮らすための無関心で支えられてる。

甲状腺ガンとその疑いのある子どもが75人に増えた。数を数えるならまず先に、どのタイミングで何人まで増えれば因果関係が認められるのか、おおよそは決めておかなきゃ今どの段階でどう安全かもわからない。100人なら安心なのか、1000人なら危険なのか。でも未だに何も決めずに子どもを数とみなすだけだから、いつも通り「因果関係はない」ってお決まりのセリフを巡って不毛な議論が一人歩きの右往左往してる。

本来は、因果関係なんかどうでもいい。だって子どもは数じゃないから。育てる人、支える人がいて、一人ひとりみんな必死で生きてる。彼らと周囲の人が今どんだけの痛みを抱えているか想像するより、メダルの色や数のほうがより多く語られる国に俺は生きてる。

前に書こうと思ったんだけど、これは家庭内暴力=DVを認めたくない当事者の構造と一緒だ。「暴力なんてふるってない」加害者がいて、「暴力はふるわれてない」被害者がいる。それと同じで、「大した被曝じゃない」国と、「被曝は問題ない」被曝者がいる。

この被曝のDV化を支えているのが、大多数の国民の無関心による、被曝者の孤立化だ。結果、

国と大多数は自分たちと被曝者を隔離するために、避難するかどうかを被曝者各自の自己責任に押し付ける。自己責任だから、自分や国にはなんの関係もない。「被曝は影響ない」し、実際に「被曝してない」と主張してその土地に住み、作物を育て、食べ続ける人もたくさんいる。

でも被曝者は避難してないから悩んでないワケでもないし、避難したから安心なワケでもない。自己責任にされた時点で、被曝者の悩みも各自に押し付けられている。

国は大多数の無関心と被曝者の孤立化を維持するために、例えば五輪という装置を使う。テレビ観て楽しんでれば、隣で悩む人がいる問題も、更には悩んでいる当事者でさえ問題を忘れられる。

でも、こんなのは悲観すべきことじゃない。むしろ笑うとこだ。メダル取れずにヘラヘラ会見する選手と一緒に、国民みんな腹抱えて指差してガラガラ大声上げて被曝者を笑ってるでしょ？被曝者自身も沈黙してるってことは、笑われてるのを受け入れてるのと一緒だ。笑えば被曝しないそうだし、これからはいっそ被曝者も他人に笑われるリアクション芸人じゃなくて、自分から笑わせるネタ芸人を目指せば良い。

人間なんて遺伝子の乗り物だから、むしろ下半身が主で、上半身はいくら偉そうな顔して（ふんぞり返ってチョビ髭でも）フラフラと乗っかっちゃってるだけだモン。みんな自分の心地良さのために生まれて死ぬのみ。基本は弱肉強食。もちろん正義なんて所詮、人間同士が共同で暮らすために妥結した単なる取り決めだ。大多数の無関心の前では大した力を持たない。だからこそ、そう。「私には正義などない」

気づいてくれると嬉しいんだけど。ここでやっとタイトルとつながった。いや、これが前回猛プッシュした『天誅～闇の仕置き人～』の決め台詞ね。俺がハマればハマるほど世間の視聴率がどんどん下がっていくのが徐々に楽しい。まさに人知れず闇でほくそ笑む感じ。今ならまだ自分だけが本当に面白いモノを発掘してるって痛々しい優越感が得られるよ。トンがった十代のガラスが、触る物みな傷つけるように、真剣なしゃべり場で「俺の子じゃない」って言い張るしゃかりきコロンブスね。

ちなみに今回から遂に五つの闇が勢ぞろいした。忍者、古武術、ピッキング、声色、ピン子。五人それぞれの特技で悪を仕置くんだ。ピン子だけ特技がピン子であるって、ちょっとピン子寄りに偏った特技なんだけど。「ピン子がピン子であるために」「ピン子にやさしく」「基本的ピン子の尊重」「みんなはピン子のために。一人はピン子のために」作られたドラマだ。正直どうかしてる。クソだ。でも、愛すべきクソ。

天誅。承知。握り飯。

この完璧な流れ。一切の妥協も視聴者の考える隙もない。むしろ考えたら負け。あれだ。何かに似てると思ったら、イチローが打席に入る前のルーチンと一緒に一緒だよ。つまりイチローが天誅、承知、握り飯の順で打席に入るあの感じだよ。オニギリくわえながら、ホッペに米粒つけながら黄門様が悪を成敗するときの流れとも一緒。何も考えず安心して嘘を受け入れられる。間違いな

く年末の流行語狙える位置にあるね。俺視聴率では五輪5%、原発10%、天誅85%なワケだから。それでも俺が思うに、フィクションとしての新しさが全くないワケではなくて。

斬新な王道って観点から考えると、王道＝ドラマとしてベッタベタな（ヘドロみたいな）三流の展開を成立させるために、斬新＝「最近の社会問題」「ピン子と奇怪な仲間たち」「説明の省略」、この三点が活かされてると思う。特に省略がね。ひどい。

「あ、ここドラマのお約束なんで説明はしよります」「え、どうしてその展開？」「今更もう。だってドラマでしょ？ こう来たらオチは大体そうじゃないっすか」って適当なノリ。いいね、フィクションはそうこなくっちゃ。

というワケで今回、ゲームの話は脇に置いて、フィクションがどこに向かうのかって話をしたい。ずいぶん前置きが長くなったな。

俺は昔からメタなフィクションが好きだった。メタフィクションって例えば、あのドラマでもピン子が視聴者に向かって「埼玉の皆様、すみません」って謝ってた場面があった。フィクションをフィクションとしてだけ完結させるんじゃなくて、キャラクターが観客に向けて話しかけるとか、演劇がよくやる観客とつながってる感じ。そういうの、安心する。これは嘘ですって先に断ってるワケだから。

ちなみに、「お前ら孤児はペットと同じ、泣いて媚びろ」とか言うドラマがあるみたいだけど、非常にベタな古いセリフだと思う。俺だったらシリアスよりむしろコメディで使いたいね。「ここは悪のちびっ子ハウスだよ、さあお泣き、ガキはペットと同じだよ！」って、タイムボカンの三悪トリオ、元のび太役の声優さんが黒ハイレグでムチ振るいながらこそ成立するセリフじゃねえかと思う。

「そーでまんねん、でないと飯やらんでまんねん」「泣け泣け一、ってもうさっさと金持ちんとこ養子縁組して、僕チンの発明の資金源になってチョーダイ！」「そんなことはさせないぞ！」「あ、その声は一、ってもう何回目だつての一！」「やっぱり来たね、このお邪魔虫が！」「毎度毎度、正義の押し売りには飽きたでまんねん」って流れがうる覚えで見えるようだよ。

しかし21世紀にそんなセリフが要るとはね。だったら「同情するなら金をくれ」を今更の再放送してた方が、まかり間違っても「今度は戦争だ！」まで勢いで行けるかもしれないよ。でも世間様の2014年2月はポストと五輪で満席なんだろうね。

ただあのドラマは孤児の問題提起とかじゃなく、単に「同情するなら金をくれ」の平成版をやりたくて、だから同じような古臭いセリフを使ってるんだろう。

ちなみにこれに関して、俺が毎度監視してる大手検索エンジンのコメント欄だけど、はじめは「ポストなんてドラマ作って、テレビ局ひどい」が大勢だったのに、人権団体がドラマに抗議した瞬間から、ころっとポスト擁護派で一面が埋め尽くされてた。「面白いドラマなのにポストにつまらない抗議を投げ込むな」ってさ。結局ドラマより人権団体に反対したい層の厚さが金満ヤンキース並にハンパないって、さすがのイチローも追い詰められたってとこだね。ここはイチローも黙ってルーチンの握り飯を頬張るしかない。さあ、リスみたいなホッペで次の打席に向かおう。

あと村上春樹のポイ捨てについてのコメントも一緒だ。「お国のために全体がある」層は個人主義の春樹が好きじゃないから、とにかく一言批判コメントしたがる。つまりその層はポストは認めるけど春樹は認めないってワケだ。

あと今回の都知事選、与党と野党、右と左がグチャグチャだったから、どの層がどっち向いてどどのくらい人数いるか知るために、仕組まれた選挙じゃないのかな。まあどうでもいいけどね。

そんでいきなりだけど、ニコニコ動画の字幕がフィクションに大きな流れを起こしたでしょ。どんなにシリアスでホラーな物語であっても、あの字幕弾幕が入っちゃうと、物語世界が現実の視聴者に文字通り侵食＝メタ化されてしまう。ネット掲示板のリアルタイム実況とかもあるけど、動画と字幕を一緒にした点でニコニコの方がより便利で軽い。ニコニコの字幕は元々、テレビバラエティーの何でも字幕にする演出から来てると思うけど、結局、視聴者は現実の学校や職場で翌日に話題にしたいって欲求があったワケだから、それを翌日じゃなくその場ですましちゃってる点でも便利で軽い。力道山の時代にはテレビが話題の中心だったけど、テレビ離れが進んだ今は面と向かってテレビの話をあんまりしなくなった。その分、ネットのコミュニティで同じような感想を共有し合ってるよね。便利だし楽しいから。ここまでは誰かが言いそうな話。

んで、この実況＝語り合いたい欲求がついにフィクションに新しい地平を築いたのが、『ゴッドタン キス我慢選手権 THE MOVIE』だと思う。いつもの「キス我慢選手権」の映画化だけど、劇団ひとりがアドリブで展開するベタな物語に対して、映画内のモニタリングスペースで同時解説が行われる。これつまりニコニコ動画の字幕が、あのモニタリングスペースになってるワケだよ。ここ「知らない人はネット検索、それが21世紀の電子書籍」だから。そこんところ4649お願いします。

あの映画は新しいメタフィクションの流れを作るかもしれない。何より面白い。もちろん劇団ひとりに負うところが大きいから、同じ企画で映画が作られるかは知らないけど、同時通訳ならぬ同時解説の波が映画にも押し寄せたってことでこの話は良しとしよう。

嘘を嘘として優雅に悠長に自分の内面で楽しむ、というのは20世紀で幕を閉じ、21世紀はもう、自分の感想を他人と共有するって自分発信が中心に来てる。音楽のライブを映画館で同時中継するとか、参加型の映画も増えて来てる。観客は単なる受身じゃなくて、一緒に映画を作る存在になってる。そしてそれはきっと映画だけじゃなくて、政治とかも一緒だろう。

例えば隣にいても、携帯電話で話したりメールしてる人に現実からは話しかけづらい。だって現実から他の空間に自分を隔離、あるいは逃避しちゃってるから。これは演者が現実に向け話しかけるメタフィクションとはちょうど逆だ。その延長上にネット発信で現実＝社会を組み替える取り組みも広まっている。

ただネットには、自分の常識を相手に押しつける側面もある。自分が常識の中心で、相手は非常識。だから他国の文化とか攻撃しやすい。そのうち首長族も児童虐待ってことになるんじゃない

かろうか。人食い人種や首狩り族が非常識とされるように。そうやって文化を国際的にどんどん平板化して行って、地方都市がどこも似たようなシャッター街になるのと一緒に、出る杭はある程度揃えられることになる。良くも悪くもそれもネット社会だろう。

でも、出すぎる杭はヤツらにゃ打てない。

被曝者や作業員が各自の悩みを解消するために必要なのは、本当は全員が出すぎる杭になることだ。でも各自が出すぎないように、そもそも出すぎたかどうかなんて見向きもされないように、五輪にばっか目を向けるように、この国は磐石に構築されてるし、被曝者や作業員は相当ナメられてる。

どうせナメられるならピカピカの飴を目指せ。しゃぶりつくされろ。大丈夫、安心して。たとえ骨だけになったとしても、ピン子にさえやさしくしとけば、五つの闇がきっとなんとかしてくれる。

ホラ、耳をすませば、「天誅」「承知」、そして握り飯を頬張るイチローの姿が見えてくるだろう？

さて、今回はこんな感じ。だいぶとっ散らかったけど、Uってタガが外れると俺なんてこんなモンだ。どうかな？



考えるウマシカ～第十回 『天誅～闇の仕置き人～』 とキス我慢選手権～

<http://p.booklog.jp/book/82651>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/82651>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82651>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ